ゆずりはの森から

第196号
2020年1月29日発行

NPO法人
ゆずりは学園

小学生
中学生
高校生
大学生
社会人

「成人式くらい出たら」の言葉で・・・

真面目な生徒でした。提出課題も期限内にいつも間に合いました。優しく、静かに笑い、東京の雑誌社の応募にも、1位と3位を同時に受賞しました。器用でした。高校卒業後には、その創作、制作の道に進むことを勧めました。すると、また静かに「1位を取ることが目的でしたから、もうこの制作はしません」と言います。高校卒業して、就職もしない、進学もしない、家にいた生徒。

住んでいる市から、届いた1通の成人式の案内。家族は、「学校にも行かない、また働かない、せめて成人式くらい出席したらどうだ」と青年を責めたそうです。すると、翌日、「働けない、また学校にも行けない、そんな僕は家族に迷惑をかけるだけです。」という言葉を残し、私たちの届かないところに行ってしまいました。

そのことがあってから、毎年ゆずりは学園の成人式を行うようになりました。

毎年、成人を迎える卒業生は、20名から多い時は40名います。その中で、午前中にそれぞれの市で行われる成人式に出席する青年も多くいます。午前中をそちらに出席した後、午後のゆずりは成人式に出席する青年もいますし、ゆずりは成人式だけに参加する青年もいます。

入学式も始業式も成人式もない国もあります。でも、この日本では節目の式があります。集団が苦手な生徒もいます。対人関係が苦手な生徒もいます。式が苦手な生徒もいます。「せめて、それくらい」の言葉は大きな責めの言葉になります。

市内の成人式に参加したら、自分の名前はなかったと言う生徒もいました。中学校時代不登校だった生徒でした。その扱いも悲しいものです。

全国で16万4600人の小中学生の不登校、彼らの何年か後に来る成人の日を心から祝う社会でありたいと思います。

不登校　公正に支える

一人の弁護士との出会い

子どものことを真剣に考えてくれる一人の弁護士がいます。彼のことは新聞などによく掲載されています。1月8日は読売新聞に、また1月9日は中日新聞に掲載されています。

読売新聞で掲載された記事は多田元先生の裁判官の黒い法服を脱いだ32年前のことが書かれていました。私が先生にお会いしたのは、約18年前のことですから、私は弁護士の先生とお会いしたことになります。何色にも染まらない「公正」を表す黒の法服。先生が裁判官でいらしたら、私との出会いはなかったです。

私立の高校の中には、それぞれの高校でいろいろな規則があり、校則があり、転校になるケースも退学だと言う高校もあり、さまざまな校則、規則があります。

高校は1年に取得する単位があります。ほとんどの高校では、1年に25単位、3年間で74単位取得しなければ、高校卒業になりません。

一つの私立高校に通っていた生徒、単位が不足で、進級できない状態でした。

転校が多くの学校で認められているのに、「うちの学校では転校はなく、退学」という高校でした。

私たちが高校に足を運んでも、無理でした。その時に、「子どもの学ぶ権利」と子どもに主体を置いた「子供に寄り添う仕事」をしてみえた先生が生徒を助けてくださり、ゆずりは学園に転校、無事卒業。

9月20日によみうり子育て応援団大賞記念講演と、この「不登校　公正に支える」弁護士 多田先生のお二人の講演になります。

よみうり子育て応援団大賞
記念講演
●13:30　1部　子安 増生教授
●14:30　2部　多田 元弁護士

今月のSHOT

1/17（金）
体育スクーリング
10月以降の転入生のためのスクーリング

1/12（日）
成人おめでとう！
ゆずりは学園成人式

青年からのSOS

苦しいのです。時間がある時は電話にも出ますし、メールも返します。元気になったと言います。感謝の言葉もあります。しかし、来客中だったり、運転中だったり、今は難しいということを伝えても、まだ電話がかかります。

今までもたくさんの青年と話してきました。時には深夜にも、深夜であるがゆえに、警察に通報されました。

行政は深夜の対応はしません。それでも、助けてほしいと言われれば、何とかしたいと思います。この青年は家族からも見放されてしまいました。一日に何回も電話が入り、メールは一分ごとに入ってきます。対人関係が苦手です。コミュニケーションが苦手です。集団が苦手です。一つの言葉で、自宅に籠ってしまう生徒、青年がいます。気にかけてくれる家族がある間は大丈夫です。

なぜ、我慢をしないかと、家族は責めます。我慢をすることは、自分を終わりにすることかと青年たちは思います。「社会では、世間では」という言葉は通じません。「あたりまえ」が通じない青年たちがいます。

また昼くらいに起きてゲームをして、好きなグループのコンサートに行き、家族と揉めている青年もいます。

家族も苦しいです。毎日、朝が来ると、「ああ生きていた」と思うのだそうです。それがお互いについてです。子どもを殺す、親を殺す事件は、「ああいつかあの家族は危険だと思っていた」と近所の人は言います。

不登校からひきこもりの連鎖だけは、防ぎたいと思います。ますます不登校は増えるし、ひきこもりも増えています。

ありがとうございました

デンソーグループはあとふる基金
今回は2つの教室の床材を新しくすることが出来ました

お知らせ
発達障害親の会 **ゆず茶**（206回）
○日時／3月20日（金）※奇数月第3金曜日
PM1:30～3:00
○場所／田原市中央図書館
発達障害対応マニュアル本『異空間のドアを開けて』1,500円 販売中

生徒募集
●フリースクール（小・中学生）
●通信制高校
●若者就労支援
●高等学校 新入生・転編入生（随時）
（提携校）さくら国際高等学校
中京高等学校

田原校（田原市野田町田尻15-14）
豊橋会場（アイプラザ豊橋 会議室）
豊川稲荷校（豊川市豊川栄町21）
見学・相談受付中！ご気軽にお問い合わせください。

お問い合せ・連絡先
ゆずりは学園事務局
〒441-3421　田原市田原町池の原15-3
TEL:0531(22)3515　FAX:0531(22)7761
e-mail:kutsuna_ike@yahoo.co.jp
http://www.yuzuriha-gakuen.com/
http://ameblo.jp/yuzurihaschool/
http://ameblo.jp/kutsuna-diary/